令和５年度

北井上小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

知・徳・体の調和がとれた輝く児童の育成
①確かな学力の育成
②自ら考え，自分の言葉で表現する力の育成
③読書活動の充実

【小中連携または中高連携における共通の取組】

「主体的・対話的で深い学び」を育む授業づくり　－より効果的なICTの活用を通して－

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

◎次の(１)～(３)をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

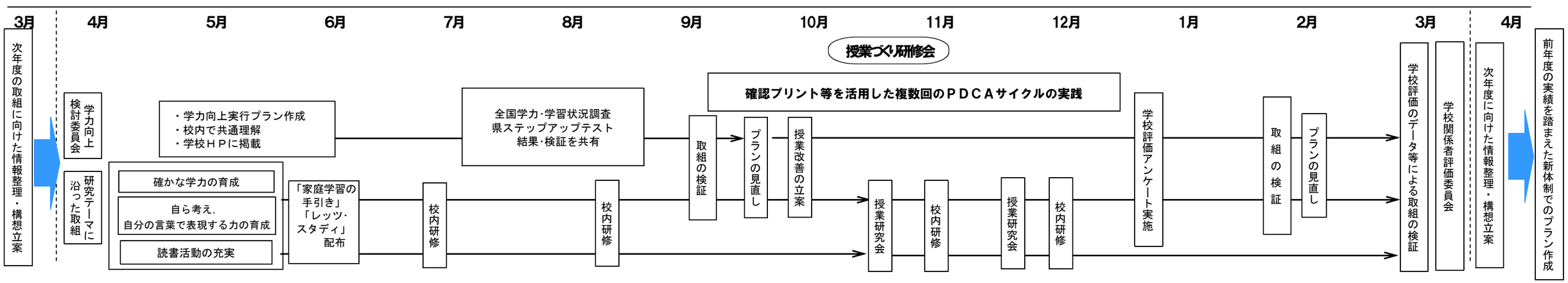
（１)知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○四則計算，漢字の読み書き等には意欲的に落ち着いて取り組んでいる。授業が分かると答える児童が多い。（児童の自己評価で「学習内容が分かっている」が97．6%） ●どの学年も学力の二極化が進んでおり，学習への意欲や正確さにも個人差が見られる。	・基礎的・基本的な学習の知識・技能を確実に身に付ける。 ・身に付けた技能について，他の教科の学習や，生活の場面において活用することができる。	・授業の5か条（①つかむ②考える③高め合う④まとめる⑤ふり返る）をもとに学習指導にあたり，学習内容の定着を図る。 ・授業時に「めあて」を持って学習に取り組ませ，それに対する「ふり返り」を行う。 ・朝の学習時に，漢字や計算などの反復練習をし，基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・学習内容や指導内容に応じて，タブレット等の ICT 機器を効果的に活用する。	継続して実行	・「学習内容が分かっている」と答えた児童が95．1%となり，高い数値を示した。基礎的・基本的な学習内容を習得していると実感している児童が多い。 ・「タブレットを使うと学習が分かりやすい」が89．3%となり，学習効果が上がると感じている児童が多い。ICTを活用した学習が，児童の「興味関心を高めること」や「知識技能の習得」に一定の効果があったと考えられる。	・授業の５か条をもとに学習指導にあたり，楽しく分かる授業づくりをする。 ・「タブレット端末を使うと学習が分かりにくい」と答えた児童もいることから，学習内容や指導内容に応じてICTを適切に活用する必要がある。

（２)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○自分の思いや考えをもち，伝えることができると考える児童が多い。（「自分の思いや考えを伝えることができる」と答えた児童が86．9%） ●「作文など，文を書くことが好き」と答えた児童が55．0%と低い。自分の考えや思いを伝えることは好きだが，作文を書く時には様々な守るべききまりや制約があり，その制約の中では自分の考えや思いが伝えにくいと考えている児童が多い。	・各教科において，根拠や理由を明らかにして，筋道を立てて考えたり表現したりする力を身につける。	・「書く」ことへの苦手意識を少しでも緩和し，楽しんで書ける学習を取り入れたり，目的意識や相手意識をもって文章を書く学習を設定したりする。 ・国語科に限らず「感想を書く」「したことを書く」「思ったことや感じたことを書く」など，様々な書く機会を増やし，書き慣れるようにする。 ・日記指導の充実をはかる。	継続して実行	・「授業中，自分の考えや思いを説明したり，文に書いたりして，相手に伝えることができる」と答えた児童は74．6%となり，昨年度と比べて大きく下回った。特に，上学年が67．7%となり，苦手意識を持っている児童が多い。	・「感想を書く・発表する」「思ったことや感じたことを書く・発表する」など，自分の考えを表現する場を増やす。 ・一斉授業で発言しにくい児童が自分の考えを表現するツールとして，ICT機器活用も有効である。授業においてICT機器を効果的に活用したい。

（３)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○家庭学習の習慣化・宿題への取り組みが定着してきている。 ●家庭学習の習慣が身につかない児童が見られる。 ●「読書が好き」が77．9%となり，読書を好まない児童がいる。（R3年度の67%より数値が上がり改善傾向にはあった。）	・各教科の学習に主体的に取り組み，自らの課題(授業のめあて)を解決することができる。 ・家庭学習に励み，苦手な課題に対しても粘り強く取り組む。	・全ての学力の基礎として読書活動を推進する。 ・週1回読書タイムをとり，読書時間を確保する。 ・1万冊読書運動，マイブックリストの活動を活用して学校における読書活動を推進し，家庭での読書活動の啓発を行う。 ・「家庭学習の手引き」をもとに保護者の家庭学習への意識を高める。	継続して実行	・「読書が好き」が83．6%となり，R3年度66．9%，R4年度77．9%と比べて大きく増えてきている。ここ数年間で初めて80%を達成した。R4年度より朝の読書タイムを導入したことも効果を得，読書に意欲的に取り組むようになってきた。	・「家で，決められた時間，学習に取り組んでいる。」が75．4%で，毎年下降傾向にある。「宿題を必ずしている」も91．8%で100%に届かなかった。家庭学習の状況を把握して児童を支援したり，保護者と連絡を取り合ったりしながら，家庭学習の定着を図りたい。

令和5年度　学力向上ロードマップ